



Rotary Opens Opportunities

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：佐藤 章夫 幹事：遠藤 正明

地区目標 「4つのテスト」を実践し ロータリーの価値をたかめよう。

クラブテーマ Let's Make The Best Better 前へ!

- ◆点鐘：佐藤 章夫 会長
- ◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ
- ◆司会：及川 善大 副 S.A.A.
- ◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2905回例会

令和3年4月5日(月)

会長あいさつ

佐藤 章夫 会長



コロナ禍いつまでもおさまりませんが、嘆いてばかりはおられません。西ロータリークラブはじゅうぶん警戒し自粛するところはして、既定の活動を粛々と進めていく所存でございます。

今日は宮沢賢治の話をしたと思います。賢治作品で生前出版したのは『春と修羅』『注文の多い料理店』だけです。それもほとんど売れなかったそうです。ところが死後になって評価が高まり、賢治ブームを引き起こすことになりました。

賢治は山川草木（さんせんそうもく）、動物植物、風、陽の光などの自然現象と語り合える人だと思えます。また宇宙と交信できる感性を持っていることがわかります。そして謙虚な人間性と人助けの行動を起こす生活は、「雨二モマケズ…」の詩に余すところなく詠われています。賢治は既成の原稿でも何度も推敲していたそうです。一見スラスラと自分の信念を書き連ねていったように思われる『雨二モマケズ…』は、死去する間際まで枕元のノートに書き直しをしていました。

私の一番好きな詩があります。この詩にはタイトルがありません。私はこれを読むといつも涙が出てきます。一生懸命に米作りを学ぼうとする青年と、真剣に技術を教えようとする教師のやりとりがそのまま平易に綴られていて感動を呼びます。読んでみましょう。

あすこの田はねえ
 あの種類では窒素があんまり多過ぎるから
 もうきっぱりと灌水を切ってね
 三番除草はしないんだ
 …一心に畔を走って来て
 青田のなかに汗拭くその子…
 燐酸がまだ残っていない？
 みんな使った？
 それではもしもこの天候が
 これから五日続いたら
 あの枝垂れ葉をねえ
 斯ういふ風な枝垂れ葉をねえ
 むしってとってしまふんだ

…せわしなくうなづき汗拭くその子
 冬講習に来たときは
 一年はたらいたあととは云へ
 まだかがやかなりんごのわらひをもっていた
 いまはもう日と汗に焼け
 幾夜の不眠にある…

それからいいかい
 今月末にあの稲が
 君の胸より延びたらねえ
 ちやうどシャツの上のぼたんを定規にしてねえ
 葉尖を刈ってしまうんだ
 …汗だけでない
 涙も拭いてあるんだな…
 君が自分でかんがへた
 あの田もすっかり見て来たよ
 陸羽一三二号のほうね
 あれはずあぶん上手に行った
 肥えも少しもむらがないし
 いかにも強く育てる
 硫酸だってきみが自分で播いたらう
 みんながいろいろ云うだろうが
 あっちは少しも心配ない
 反当三石二斗なら
 もうきまったと云ってい
 しっかりやるんだよ
 これからの本当の勉強はねえ
 テニスしながら商売の先生から
 義理で教はることでないんだ
 きみのやうにさ
 吹雪やわずかの仕事のひまで
 泣きながら
 からだに刻んで行く勉強が
 まもなくぐんぐん強い芽を噴いて
 どこまでのびるかわからない
 それがこれからのあたらしい学問のはじまりなんだ
 ではさようなら
 …雲からも風からも
 透明な力が
 そのこどもに
 うつれ…

以上で、挨拶といたします。ありがとうございました。

幹事報告

遠藤 正明 幹事

- ハイブリッド例会ということで皆さまにご案内をいたしました。今日こちらに、6名の会員の方に参加をいただいています。コロナ禍の中、皆さんが集まることが果たしてどうなのかと考え続けましたが、こういった手法も使って、粛々と進めることができるといふふうに思います。簡単にできますので、いつでもご相談をいただきたいと思います。
- 例会終了後、理事会を開催いたしますので、関係の方はお残りいただきますようお願いいたします。
- 今月のロータリーレートは110円です

委員会報告

職業奉仕委員会

先週の移動例会には多数の方、参加いただきまして誠にありがとうございました。短い時間の中で、なかなか体験ができなかったりしたというところもあるのかなと思いますけれども、ぜひ今回の経験を少し仕事のほうに結び付けられるヒントになればと思いました。大変ありがとうございました。

親睦・家族委員会

会員の方が7名、奥様が11名、4月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

ニコニコBOX

〈4月5日〉

佐藤章夫会長／宇野全匡氏をお迎えして私の30年来の友人です。ロータリー精神を共有し、地域社会に貢献している尊敬すべきお方です

坂部登さん／宇野さんをお迎えしてようこそ宇野さん。青年会議所で約40年前“自主性を創る子どもの集い”で大変お世話になりました。

浦山潔さん／テラー浦山本店、新店舗オープンしました先日15日より、城南1丁目に（城南陸橋を越えて西に向かって、最初の信号を過ぎて左側すぐ）新装本店をオープンしました。皆さまよりご来店賜り誠にありがとうございました。今後とも七日町店同様、よろしくお願い申し上げます。ちなみに私は七日町店を担当いたしておりますので、近くにおいでの際はお立ち寄りください。



第1回ハイブリット例会風景、右側TVはリモート画面

ゲスト卓話



「流汗悟道の実践」

宇野 全匡 さん

地福寺 住職

今日のテーマは「流汗悟道」。久々にロータリーソングを聞かせていただきましたが、この中で般若心経と非常につながりがある句がございまして、最後の「羯帝羯帝波羅羯帝 波羅僧羯帝菩提僧莎訶 般若心経」であります。この「羯帝羯帝波羅羯帝」は、お釈迦さまが自分の人生観を272文字の中で表しております。その結びとして「羯帝羯帝」、インドの言葉で日本語にはなかなか訳せない部分で、あえて原文のままいろんな経典では出してありますね。

「羯帝羯帝」は平たく言いますと、まさしく手に手をつなごうなんですよ。「波羅羯帝」は隣同士で。例え考えも生まれも、生活も違う人とも手をつなごう。どんな時でも1人ぼっちじゃないから。これがお釈迦さまの最後の結びの詞の1つになってるんですね。「菩提僧莎訶 般若心経」は、みんなが喜怒哀楽を共有できる世界にみんなで手をつないで行こう。考えも生活も全部違う。当然肌の色も違う。生まれも違う。育ちも違う。そういった人が手をつなぐことによって一緒にになれるんだと。このロータリーソングを作ってくれた人はそこまでの意味を持ってたかどうかはわかりません。でも私はそう受け止めさせていただきました。

この「羯帝羯帝」のことをある童謡作家が子どもたちにも伝えようと作った歌が「靴が鳴る」なんですよ。「お手をつないで 野道を行けば」、手をつなぐことによって、特に今はコロナコロナで大騒ぎになっています。こんな時だからこそ手をつなぐ。そして今日、直接向き合うことができない人とも手をつなごうと考えてくれた幹事の方、本当に頭が下がります。

こういう形で、お釈迦さまが別のお経の中で、私たちには不思議な力が備わっている。その神通力の1つに、思い浮かべることができる私たちは生き物だ。直接手に触れることはできなくても、ここにいないでも、思い浮かべることによってその人と一緒にになれるという力です。たとえ住む世界があつた世とこの世と違って、それは可能なんだというのがお釈迦さまのあつたかい教えの1つだと私は受け止めております。

今日おいでの皆さんはどなたでも、目を閉じれば大事なお方のことを思い浮かべることができるし、思い浮かべたその瞬間に実は思い浮かべられた側にも浮かんでいるんだそうあります。これは私たちに備わった不思議な力。

私はうちの寺に来る子どもたちによく言うんですが、思い浮かべてみよう。自分が誰かに後ろ指を指されて、にらまれていることを。笑顔になれるだろうか。自分や誰かが後ろ姿から「ありがとう」と言って感謝をされている姿。どんなにか「あ、生きていて良かったな」と幸せ感を味わうことができるだろうか。こんなことをあの歌を耳にしながら思い浮かべさせてもらってあります。

今日はそういった意味では、それぞれの皆さん方1人1人に大事な大事なお方が必ずいらっしゃるはずでござい

ますので、その人を思い浮かべたことを家族に、今日お休みになるまでの間に接することができた人に、そのことを語っていただければありがたいな、嬉しいなと思います。

私が時々思い浮かべる教えの1つに、「即今」という教えがございます。「今即ち」、大学が終わって大本山永平寺に修行に入りました。その時にめぐり会いをさせてもらった熊澤泰禅禅師さままでございました。禅師さまは愛知県の生まれで、小さい時に大やけどを負ってしまい、それがもとで歩けなくなりました。それを苦にした母親は、琵琶湖に入水を3度ほど繰り返したんですが、3度とも助かってしまった。もしかしたらこの子は命を終えてはならない子なのかもしれない、そう考えなおして近くのお寺さんに、親子で入る決意をし、それから数十年後には大本山永平寺の禅師さまにまでなられたお方でもございました。

この禅師さまがちょうどいらした時に私が修行に入りました。最初に授かった役目は羅漢経という役目でありました。大本山永平寺の山門の上に500体の羅漢さまがお祀りされております。そのお世話を毎日する役目です。その五百羅漢さん1体1体に、朝起きますと「おはようございます」と言って顔を拭くんです。洗面から始まります。次に1体1体を拭くたびに参拝をやるんです。立ったり座ったりのお拝をやっていく。それが500回やっていきます。

最初は物珍しさもあって、そんなに気になりませんでした。3日くらいしましたら、馬鹿らしくなってきましたね。こんなこと言ったら怒られるんだけど、木像ですよ。それをずっと布巾で拭いて、そのあとに当然おかゆを食べさせ、お供えします。500服分ちっちゃなお椀に入れて。すると「お供えさん、どうぞお召し上がりください」とお拝をします。それ、召し上がるわけにはいきませんね、木像ですから。するとこれ、もったいないでしょ。その係の人が羅漢さまの代わりにいただくんです。だから代わりにいただきますというお拝をするんですね。スプーン1杯ずつつかないんですが、それも500杯、500回ですね。3日過ぎ、4日過ぎたら、これも馬鹿らしくなってきました。

すると私は何を考えたかということ、周りをキョロキョロ覗くようになりました。その役目は私1人で、誰もいません。羅漢像も木像です。「ま、いいか」という結論を自分で作り出して、5体おき、次の日には10体おきにお拝をするようになり、1週間後にはまとめてお拝する自分がそこにおりました。

それでもなんら変わりありません。1カ月過ぎました。なんか違ってきました。何を言われるとか、見てるわけでもなんでもありません。それでも何かが変なんです。1カ月半過ぎました。10体おきにまた戻っておりました。そしてだんだんと5体おきに戻っておりました。みんなの五百羅漢さまにずっとお拝をするようになるのに、戻った時には2カ月の時が過ぎておりました。

1日と15日に禅師さまに直接問答することが許される日に、「あれ、なんのためやってるんですか。食べもしない、飲みもしないお茶をお供えして、ありがたうとも言ってくれない顔拭きをやって、あれ、なんなんですか」と質問をしました。そしたら禅師さまから返ってきた言葉が、「そうかね」。「やる意味はないですよ」「そうだろうね」。「おいしいとも何とも言わない」「そうだろうね。そうかね」。「なんかないんですか」「そうかね。そうだろうね」としか返ってきません。問答していること自体もなんか馬鹿らしくなってくるんです。帰り際に禅師さまが「見てくれているんだけどな。食べてくれているんだけどな。お茶を『おいしい、今日はおいしかった、今日は熱かった、ぬるかった』と言っ

てるんだけどな」ということを、ふっと後ろ姿、背中に言われました。えっ？ そうなのかな。その次の日から本当に言ってるかどうかを聞きたくなる、本当に見てるかどうかを確認したくなる自分がおったんですね。

皆さん方も朝起きたらお茶をお供えし、お水をお供えし、仏飯をお供えする家庭がまだあるかと思えます。あれは自信と誇りを持って食べてくれています、見てくれています、飲んでくれていますということを、子どもたちに伝えますと、子どもたちは「なぜ？」という疑問を抱いてくれるはずであります。私たちの命を豊かにするのはこの「なぜ？」という、のが基本だと思っております。

そして禅師さまから私は2度目の大きな宝物をいただいたのが、お風呂の係をしている時でありました。禅師さまは歩けません。ですからお風呂に入る時は4と9のつく日、四九日（しくにち）と言いますが、その時にみんな頭を剃って、お風呂にお入れします。抱っこしてお風呂に入れます。何度かお風呂のお世話をさせてもらっている時、掃き掃除、拭き掃除、草取り、いろんな仕事をする時も禅師さまはよく「即今、即今」と呟くんですね。「即今じゃ、即今じゃ」。拭いていても「即今じゃ」。お風呂に入っている時に着替えをさせていただきながら聞きました。

そしたら、「ああ、即今。聞いておった？ ところで、山形の和尚、君はいくつになった？」と言われました。当時22歳でありまして「22歳になりました」。そしたら禅師さまが「ああそうか、22歳か。じゃあ私とおんなじじゃ」と、こう言ったんですね。「え、同じじゃありませんよ。私は22歳、禅師さまは96歳です。全然違いますよ」と、こう言いましたら、「山形の和尚、何回目じゃ」と言われたんですね。「何回目と言われても、私、初めてです。22歳、まだなっただけです」。そしたら禅師さまが「だから、一緒なんじゃよ。私もね、生まれて初めて96歳。あなたは生まれて初めての22歳を今やってる。今、初めてなんだ。人生はな、ハラハラしながら、ドキドキしながら、ワクワクしながらの毎日を、生まれて初めての今を生きていかなきゃならんのだよ」ということを言われました。

今この時代でまさしく人類が初体験のことを世界中で味わっています。どうしたらいいかわからない。だからこそハラハラ、ドキドキ、ワクワクしながらこの一瞬一瞬を過ごしていってほしいなと思います。

その時の基本になるのがいったいなんなのか。お釈迦さまはさまざまなお経を通じて私たちに示してくれておりますが、その中の1つ、大学先生がことあるたびに私たちに志を有しなさい。志。いつでも、どんなところにも、誰といても、志を自分の中に持っているかどうか、存しているか、有しているかということに常に確認をすることを忘れてはならない。その確認をするために先人たちは、自分自身を磨くことを怠らなかつた。道元禅師さまが正法眼蔵というのを示してくれました。その中に「古も皆苦を忍び寒きを耐えて 修道せしなり」という教えを示してくれております。

その中の一節に「古人も皆金骨にあらず」とあります。古人もみな、すべての人々は金の骨を授かって生きている人は誰もいません。みんな白い骨をいただいているのです。その人から光が出てくる人がいる。人すべからくこれ金骨にあらず。

このことを、有名な野球のイチロー選手が中学校2年生の時に耳にしたそうです。「人すべからくこれ金骨にあらず」、それまで自分のスパイクとかグローブとか、後輩に磨かせたり、あるいは親に磨いてもらったりしておった。と

ころがそれ以来、彼はグローブもスパイクもバットも、自分で磨くことを怠らなかった。大リーガーになってもそれがずっと続いたんです。

イチロー選手が自分のポジションに立った時に、あるルーティーンをすることをみんな記憶にありますかね。ライトのポジションに片膝をついて必ずグラウンドを触るんです。そして帽子を取ってスタンドと内野のほうに向かって一礼をする。これが彼自身の命を磨いている様だったそうでもあります。その生き方が、今でも彼は業ずることで、磨くことで自分自身の命というものからすばらしい光が射しているんでしょう。その基本になっているのがやっぱりハラハラ、ドキドキ、ワクワクで、慣れっこにならない。

私は今、78歳になりました。生まれて初めてであります。初体験です。その中でも78歳の自己ベストは一体なんだろうと思ったとき、これは禅師様が示してくれた。私たちには汗を流す力がある。考えたこと、口に出したこと、行いに変えていく。まず思い浮かべる。そして考える。考えるということは昨日と今日と明日というこの3つの時の流れを考える力を持つこと。いわゆる「三世(さんぜ)」ですね。過去・現在・未来という時の流れを考えることができる力を持っているのは、私たち人間に与えられた大変な宝物であります。過去を考えることができるから反省・後悔もすると同時に感謝することができます。そして今を考えることができるからおかげさんを知ることができます。そして、明日を考えることができるから、当てにならない明日・未来のことを考えることができるから、私たちは夢と希望を抱きながらもそこに不安が生まれていきます。だからこそ私たちは自らの命を自らの力で磨き続けていく。それがそれぞれの方の光輝く、輝いて見える命になっていくのかなと。

先日、新聞を見ていましたらね、ある子どもの大変な詩が出ていましたので最後にご紹介します。

「もう1人の私」と書いてありました。小学校5年生の男の子です。

鏡の中に私がいる
私の目に私が映る
怒ったときでも悲しい時でも、自然にニニコニしてくる
鏡の中の私が私に何かを話しかけてくる
すると私は素直になる
鏡の中に私がいる
私の中に私がいる

小学校5年生の男の子が、こんな考えを文にすることができている。日本の若者はまだまだこれは期待が持てるなと、そんな思いで私自身の目を磨かせていただいたところでありました。

どうぞ皆さん、今日おいでの方々はそれぞれの世界でそれぞれの分野で汗を流してくださっている。その汗を流すことの中に必ず自分の志というものが見えてくるということを感じていただき、ご精進を重ねていただければと思います。在りし日のすばらしい青年たちの前でこうやって話をさせていただく機会をいただき、ありがとうございました。

新入会員スピーチ



遠藤 直樹 会員

弁護士

昨年末に入会させていただきました、弁護士の遠藤直樹と申します。

民事事件一般、家事事件、国選弁護などの刑事事件や債務整理事件。そういったところが多い分野となります。よく「専門はなんですか」という質問を受けることがあります。私としては今のところは特定の分野に絞らずにできるだけ幅広く対応することを意識しております。

心理学上はコミュニケーションにおいて言語情報以外の非言語情報、つまり態度や表情、こういったものの影響力は非常に大きいというふうにされております。そこで、コロナ禍においてはウェブ会議の重要性が増しております。本日の例会もウェブ会議とのハイブリッド式でありますし、ファイヤー・サイド・ミーティングではすでにウェブ会議が実践されております。他方で個人的には同じ空間を共有して、Face to faceでのコミュニケーション、これが一番大事、重要というふうに考えております。1日でも早くコロナ禍が過ぎ去り、支障なくFace to faceでのコミュニケーションができる日常が戻ることを心から願っております。ご清聴ありがとうございます。

三密コーナー

2021年4月5日(月)、ハイブリット例会なる新しい形式の例会が始まった。仕掛人、遠藤幹事に聞いた。

ズバリ【ハイブリット例会】とは…?

ハイブリットとは「混成の」「混合の」の意味を持つ言葉だそうです。つまり例会に足を運んでの参加と、人に会ったり話したりするのに不安を感じたりする時はリモートで参加。どちらも出席と認める例会です。

まさに混成での例会です。

このコロナ禍の中、全国の各クラブで色々な工夫をしていると思いますが、この方式はすでに山形南ロータリーでも導入済みと聞いております。

新たな形式がいち早く馴染むよう、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



本日出席 (4 / 5)	会員総数	出席会員数
	100名	61名 (リモート6名)